

特集

学校運動部活動と連携するクラブ

特定非営利活動法人幕別札内スポーツクラブ ＜北海道幕別町＞

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

このような中、令和2年9月に文部科学省が示した「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」では部活動の地域移行について示されており、総合型クラブと学校運動部活動の連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1 クラブ概要

町の2体育施設を指定管理

「地域で子どもたちを育てる」を理念に掲げ、子どもたちを中心に据え、地域の皆さんが互いにファミリーとして支え合える環境づくりに努めています。

小中学生を対象としたサッカー・陸上のチーム運営とともに、幼児のスポーツ教室や高齢者の健康教室などの各種スポーツ事業のほか、令和元年度より、町の2つの体育施設の指定管理も受託しています。

会員数より会員相互のつながりを優先

現在の会員は500名あまりで、職員20名のほか、ボランティアスタッフや高校生アルバイトで運営しています。会員数よりも、会員相互の横のつながりを大切にしています。

「横のつながり」に向け、年に1度の「みんなDEスポーツ&焼肉」というイベントを創立、今も継続している大切な事業です。会員が集い、様々なスポーツを楽しむとともにBBQで相互交流を図っています。

これ以外にも、「陸上チーム」と「サッカーチーム」といった普段は異なる種目で会員が分かれています。それぞれが可能な限り一緒に別のスポーツの大会やイベントに参加したり、合同トレーニングにも参加したりしています。

2 高校との協働を契機に連携始動

私たちの運動部活動改革はまだまだ取り組み始めたばかりであり、一步一步、事業を検証しながら進めている段階です。高校との協働を切り口にしているところに特徴があります。

全生徒がクラブ会員に

地域と共に歩むことを目指す北海道幕別清陵高校と、同じ理念を掲げる地域スポーツクラブの共通の想いがあり、同高校校長とクラブマネージャーが面談をして互いの状況を共有したことがきっかけとなり連携がスタートしました。各種連携事業を進めていながら運動部活動改革を探る中、生徒たちのスポーツ環境の充実とともに、教職員の働き方改革という視点から「生徒全員がクラブ会員に所属することとなりました。今年度からの体制のため、まだ課題は出てきませんが、今のところ苦労することは見当たりません。逆に、「生徒さんの活躍＝会員の活躍」であり、喜びが増えています。

クラブ側としては、生徒全員加入による財源をもとに、運動部活動に限らず、学校活動全体において会員向けの事業として協働していくことができます。たとえば、生徒たちの通常の授業の中でも、クラブが指定管理する施設でのスポーツ教室の運営のほか、地元企業への体験授業、地域の図書館などへの送迎をマイクロバスで行っています。また、授業に必要な講師を紹介したり、昨年度は生徒会との協働事業として地域でイベントを開催したりしました。一過性のものではなく、将来を見据えた持続可能な体制を構築することができることを期待しています。



清陵高校との連携図



清陵高校陸上部とクラブの陸上チームとの合同練習

学校側としても、部活動のみならず学校全体の業務負担の軽減で「教職員の働き方改革」につながります。そして、部活動も含めて、希望する教職員はクラブスタッフに就任することも可能で、地域での活動の幅を広げやすくなるという期待があります。

既存の部活動支援と新しいカタチの部活動創設

既存の部活動に対しては、試行的に昨年度初めに「陸上部」からスタートし、クラブスタッフが定期的に指導を行っています。成果を検証した上で、他の種目へと広げていく予定です。陸上部から始めたのは、高校に専門指導者が不在であったことと、わがクラブには陸上のチームがあり専門スタッフがいたことによります。



連携事業の中で陸上部の生徒が企画運営した陸上教室

生徒の発案で多世代・多種目型の「オール部」開設

新しいカタチの部活動としては、クラブとの協働で「多世代型運動部活動」の創設です。生徒自らが企画運営し、活動を創り出します。また、当該生徒のみならず、地域の誰もが参加できるような部活動を目指しています。生徒の発案で「オール部」という名称になりました。この部活動に加入を希望する生徒が増えていますが、各々が様々な趣向を持っています。今後、この部活動内に多種多様な「コース」を設け、一つの部活の中で多様なコースを設置して活動していく可能性もあります。この体制を整えていくことで、生徒たちが希望する部活動が学校になくても、オール部に加入し、その中で自ら希望する活動を創り出すことができます。

何より、新たな顧問の配置が必要ありません。例えば、新たにダンス部を創設しようとする、そこに顧問が必要となってきます。さらに、テニスをやりたい子がいれば、テニス部を創設し、そこにも顧問が必要となります。しかしながら、「オール部」の中に、ダンスやテニスの「コース」ということであれば、今現在「オール部」として顧問が配置されているため、新たな顧問を置く必要はなく、新しいスポーツをする機会が増えることにつながります。

将来的には教職員が兼業でクラブスタッフに

将来的に、全ての部活動は勤務時間外にクラブ管理下で行われ、顧問を希望する教職員は、兼職兼業でクラブスタッフとして関わり、その対価の謝金を受けるといった体制を目指しています。



創設「オール部」の活動

3 教職員と協働し新事業で財源確保を

課題はやはり「財源確保」と「指導者確保」となります。

「生徒全員がクラブ会員」となることで、一定程度の財源確保の見通しはできますが、今後、中学校を含むすべての部活動の地域移行となってくると十分とは言えません。よって、財源確保のためには、クラブスタッフとして各種事業の開催を希望する教職員と協働し、参加費収入が見込まれる新事業を組み立てていくことも検討しているところです。

新事業として昨年度も行いましたが、高校生と中学・高校顧問が主体となった「小学生向け野球教室」を開催しました。あくまでも希望する教職員がいらっしゃれば新事業の実施ということになりますが、互いに「地域貢献」や「競技普及」という想いが共有できた際に可能性があると思っています。その他、昨年度は、クラブ主催ではありますが、企画・運営は生徒会が担って「長いも好み焼き大食い大会」というイベントも地域で開催しました。いずれも参加費収入がありました。

また、指導者確保については、現在、クラブが事務局を担っている町の少年団本部や、体育連盟との連携の中で、地域の小中高における同一指導者による一貫指導という視点で、地域人材の掘り起こしも進めていく必要があります。もちろん、希望する教職員の存在は貴重な人材です。

部活動改革＝「町づくり改革」→地域住民が参加できる展開に

部活動改革は「町づくり改革」とも言えます。こうした一つ一つの実績をもとに、自治体からの支援も求めていく必要はあると考えています。

本来、部活動は生徒全員が自由に参加できるものであり、誰もが自主的に運営できるものであるはずです。決して、一部の生徒だけのものになってはならないはずです。

そして、最終的には、部活動も当該生徒だけではなく「多世代を含む地域一体となったカタチ」の総合型クラブを目指し、地域住民が誰でも参加できる展開につなげていくことを夢見ています。それが、「地域で子どもたちを育てる」というクラブの理念そのものと考えています。

(幕別札内スポーツクラブ クラブマネジャー 小田 新紀)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成22年4月1日(平成23年8月31日法人登記)

所在地 北海道幕別町

運営 会員数532名(令和2年3月現在)、予算規模7,500万円(令和3年度)

特徴

- ・スポーツを通じた地域コミュニティづくりを目指す。
- ・「食×スポーツ×音楽」を取り入れた各種事業を展開。
- ・スピードスケート金メダリスト高木姉妹をはじめ、各競技でのトップアスリートが在籍経験あり。

連絡先 〒089-0531 北海道中川郡幕別町札内暁町287 札内スポーツセンター

TEL/FAX 0155-56-4083

E-Mail ecsproject21@gmail.com